

# キセキレイ

*Motacilla cinerea*

セキレイ科・夏鳥



キセキレイ

## 名前の由来

胸から腹があざやかな黄色のセキレイだから。セキレイは鶺鴒と書き、背は背筋、令は冷たく澄んでいること。背筋が清冷な鳥という意味である。漢字名：黄鶺鴒

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(水辺)  
鳥類

(葦原・樹林)  
鳥類

## 特定種

該当なし

## 形態的特徴

全長（くちばしの先から尾の先まで）20cm。長い尾を持ち、腹面が黄色いセキレイ。頭の上、ほお、背、肩は青みがかった灰色。目の上には眉毛のように（眉斑）白い筋がくっきりとある。のどの脇の部分にも白い筋（顎線）がある。夏羽の時のオスののどは黒く、のどの脇の白線が目立つが、メスや冬羽のオスののどは白い。

**飛び方など：**地上に降りると尾や腰（後半身）を頻繁に上下にゆする。また飛ぶときには、羽ばたきと翼を閉じての滑空とを繰り返す、波のような飛行曲線を描く。飛んでいるときには翼に細い白帯が1本出る。

**声：**飛んでいるときには「チチン、チチン」「チチチ、チチチ」と金属的な声で鳴く。繁殖期には枝や大石、電線などにとまって「チチチチ」とか少し濁った「ヂヂヂヂ」という声でさえざる。

**類似種と見分け方：**ツメナガセキレイは尾が短くて、足は長めで黒く、翼に2本の白帯がある。ツメナガセキレイはサロベツ原野などに夏鳥として渡来する。



キセキレイのオスの夏羽。のどが黒い



キセキレイのメスのはのどが白い。冬羽のオスも

## 生息環境・分布

低地、低山帯に多く、亜高山帯から高山帯まで現れる。小さな水路から大きい川まで水辺をすみかとする。十勝には4月下旬～5月上旬に飛来する夏鳥。

**分布：**ユーラシア大陸の中緯度地方とアフリカ大陸南部に分布。

日本では、北海道、本州、四国、九州とその周辺の島々で繁殖し、冬は本州以南、琉球列島にかけて越冬する。

北海道（十勝でも）では夏鳥。繁殖する。4月下旬～5月上旬に渡来する。主に河川上流部の山地河川に生息する。秋には河川下流部にも飛来する。

十勝には4月下旬～5月上旬に飛来し、主に河川の中・上流部で見られる。

## 生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期				繁殖								
本州以南 (越冬期・通年)	越冬											

## 食性・他生物との関わり

主にハエ目、カゲロウ目などの昆虫類を食べる。  
地上や水辺を歩きながら採食する。また水辺の石や流木にとまり、飛ぶ虫に向かって飛んで捕まえたり（フライングキャッチ）もする。

捕食者は猛禽類など。

## 繁殖生態

繁殖期は4月～8月。一夫一妻で繁殖する。  
オスの求愛のための動作（求愛ディスプレイ）は体を低くして首を上、くちばしを垂直に起こし、翼を半開きにして下げてさえずるというもので、このとき腰や脇の羽毛を逆立て、尾羽は少し開いて幾分下げているという。  
溪流近くの崖のくぼみや樹木の幹に近い枝の上などに営巣する。巣はお椀型で、枯葉、細枝、樹皮、コケ類などで作られる。内側には細い根の他獣毛や羽毛などが使われると

いう。外装はオスメスで作るがメスの方が多く作業し、オスは近くで盛んにさえずる。内装はメスを作るという。  
4～6個の卵を産む。オスメス交代で卵を抱き、ヒナは11～14日でかえる。ヒナもオスメス共同で育て、11～14日ぐらいでヒナは巣立つという。

## 興味深い話

- 飛んでいる虫を空中で捕らえるフライングキャッチが得意。時にはふらふらと方向を変えながら虫を追い回したりもする。
- 繁殖期のオスのなわばり争いは激しく、カーブミラーやガラス戸に映る自分の姿に向かって飛びついて戦おうとしている姿は一般によく知られている。
- オスはとまってさえずる他、しばしば飛びながらもさえずる。
- オスのみでなくメスもかなり積極的に求愛ディスプレイ（繁殖生態の項参照）を行うという。
- 繁殖期にメスが近くに来ると、オスは巣の予定地に入ってみせては再びでてきて、求愛ディスプレイ（繁殖生態の項参照）を繰り返す。
- 卵はオスメス交代で抱くが、夜にはメスだけが抱く。ヒナを抱くのも同様。
- ふつう、小鳥のヒナは巣の中で親鳥から餌をもらおうとすぐに糞をする。これを親鳥は直接くわえてその場で飲み込んだり、捨てにいたりする。キセキレイは親鳥がヒナの糞を近くの水溜りや流れの中に捨てに行く。さらにはくちばしまで洗うきれい好きでまめな鳥だといえる。

- 地鳴き（さえずりではない普通の鳴き方）は、「チチン、チチン」とハクセキレイに似るが少し声量がある。
- キセキレイもセグロセキレイも、生息地として同じような場所を好むが、キセキレイの方が川のより上流部にすむ。
- 体長はセグロセキレイやハクセキレイとたいして変わらないが、体重は半分ぐらいしかないという。尾羽の割合が大きく、体つきも細い。
- 十勝地方のアイヌ語では、セキレイ類を「オチュチリ」という。



キセキレイはきれい好き？

## 配慮事項

水生昆虫類の豊富な水辺が必要。

### 参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)  
「原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995  
「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000  
「野鳥ブックスー2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994 増補版7刷)

「鳥のおもしろ私生活」ピッキオ 編著、主婦と生活社 1997  
「キセキレイ、子育ての観察」長谷川博、岩崎書店 1983  
「アイヌ語で自然かんさつ図鑑」帯広百年記念館編、内田祐一・池田亨嘉、帯広百年記念館友の会 2004

羽田健三・市川武彦 (1967) キセキレイの生活史に関する研究。  
II繁殖期(2)繁殖期の諸行動の雌雄分担率、ナワバリ、家族生活、生産率、日生熊会誌、17:182-189.

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類  
ワシ・タカ